
天使と悪魔と中学生

澄谷 コハク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天使と悪魔と中学生

【Nコード】

N2655I

【作者名】

澄谷 コハク

【あらすじ】

ある日のこと。

私の目の前にあらわれたのは・・・

天使と悪魔・・・

・・・え？天使？悪魔？なに？

プロローグ

ある日突然、私の目の前に

名前も知らない二人の男があらわれた。

その二人は

天使と悪魔。

プロローグ（後書き）

「いくらプロローグっていても・・・ちょっと短すぎじゃない？」
・・・と思った方、すいません。

これからもこんな感じですよ。内容が薄いです。

「うーん・・・まあこんなのもいいや」
と思った方は

これからもよろしく願います！！

第一章 悪魔

キーンコーンカーンコーン……

チャイムが鳴った。

ふう……。

やっと終わった……。

学校なんて大つつっ嫌い！

私、高^{たかはら}原 恋^{れん}は、学校というものが大つつっっ嫌い。

友達だつて普通にいるし、とくに嫌いな授業もないけど……。

その存在が嫌い。

いや、本当に嫌い。

「早く帰つてマンガ読もうかな……。あ、そうだ！読みかけのが一冊残つてた！」

私は教室を出た。

校門をくぐりぬけて道路を歩いていると、少し遠くの道の端に何か落ちていたのを見つけた。

「……？なんだろ……。あれ……」

私は気になって近づいた。

「……財布？」

財布が落ちていた。

私はその財布を拾い上げた。

「……？誰の財布だろ……。っていつかこの財布どうしよう……」

交番に持って行った方がいいよね……。

いや、そのまま持つていつちやおつか……。

でもそんなことしちゃだめだし……。でも今私金欠だし……。

でも……。いや、でも……！！

あ—————っ！どうしよう——！！

「とつちまえよ。」

「……………ん？」

「今なんか聞こえたような……………」

「おい。聞いてんのか？」

「……………あれ？」

「この人……………誰？」

「真っ黒で大きいマント……………」

「そして大きなフードを深くかぶってる。」

「へんなの。」

「この人、誰だろう……………」

「……………痛い人？」

「失礼ですが……………どなた？」

「俺の名はアレク。」

「悪魔だ。」

「……………はい。」

「おまつ、なんだよその『はいはい』。分かった悪魔のアレクね。で、名前は？』みたいな顔はっ！！！」

「あ、すいません。分かっちゃいました？」

「誰が見ても分かるわあんな顔っ！！！」

「……………どなた？」

「……………だからさっき言っただろうが！！俺の名はアレク！！悪魔だ！！」

「いや、ほんともう分かったから。名前は？」

「……………だああー！ああー！らああー！！！！さっきから悪魔だつて言ってるだろーがああー！！！」

しばらく経った。

「じゃあ、本当にアレクは悪魔なの？そういうの信じられるほど私
純粋な子じゃないんだど……。」

「いいから信じろ！！本当だから！！恥かかせたりしねえって！！」

「はいはい分かりました。……で、アレクはここに何しに来たの
？」

今更な質問。

「お前、なんも聞いてなかったのかよ……。」

アレクは呆れたように言い放った。

……私のせいじゃないからね？

そしてアレクは私に説明してくれた。

「お前、さっきこの財布拾ってどうするか迷ってたたる？」

「ああ、うん……それが？」

「……その財布、お前がとっちまえよ。」

「……は？」

何言ってるの、こいつ……。

「いいじゃねーか。誰も見てねーんだぞ？ちようどいいじゃねーか。
人が来る前に早くとっちまえよ。」

……これなんかで見たことあるんだけど。

……バカじゃないの？

「な！とっちまえよ！」

「っだあああああああああ！！」

私は思いつきり叫んだ。

「うるさい！私は今ほんっつとつとつに悩んでるの！！邪魔しないで
つてば！」

「っだから悩んでんだろ！？とっちまえって言うてんだよ！」

「……。そんなこと言われたら私とっちやうよ？ほ
んとにとっちやうよ？いいの？」

「だからとっちまえって！」

……いいのかな？

第一章 悪魔（後書き）

ちよつと中途半端なところでおわっちゃいましたか……。まあ内容はみなさん想像できるでしょう……。できればみなさんの予想を上回るくらいにおもしろくできたらいいなー……。と思ってるんですが……。ね。いいよ、それでも見てやんよ。という心の広い方は次章も読んでいただければ幸いです。

第二章 天使

「ちょっとまったあああああああああああああああ!?!」

キーーーーー

いきなりすごく大きな声がした。

・・・正直、うるさい。頭に響くー・・・!!

そしてその大きな声の主は、アレクとは全く逆で、真っ白な・・・マント?—(なんだこれ・・・)に、包まれていた。

アレクと同じで、フードを深くかぶっていて、やっぱり顔が隠れている。

・・・流行つてんの?

「で、・・・あなたは誰ですか?—(天使とかやめてね・・・?)」

「僕はラピス。 天使だよ。」

「はあーーーーー」

「ちよ、やめてよその顔! どうせ『なに? なんかもまた変な人出てきちゃったよ・・・。私大丈夫かな? 疲れてんのかな?』みたいなこと思ってるんでしょ!？」

「おおー。もろ当たってます。よく分かりましたね!」

「え、いや、まあ・・・じゃなくて!!」

この人、ラクシスもアレクと同じ様なことを言う。

私ほんとに大丈夫かなあ・・・? この状況にどんどん慣れてきちゃったよ・・・。

「で、あなたは何をしにきたの?」

「よくぞ聞いてくれました!」

第二章 天使（後書き）

天使が出てきましたね。

「ちっ、やっぱり出てきたよ……。上回るとか言っていなかったっけコイツ。嘘つきやがった……。」

……と思った方、本つつつつ当に申し訳ありません!!

こんな風に流れていってしまいました。まあ次章もこんな感じですよ。

「もうやめ。こんな小説には付き合ってもらえない。」

と思った方……。行かないで下さい!!!!!!

あなた一人がいなくなるだけでもう0人になるかもしれないんです

!!お願いします!行かないでええええええええ!!

……。取り乱しました。申し訳ないです。ほんとに。

では、次章も付き合ってくださいという方は付き合ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2655i/>

天使と悪魔と中学生

2010年11月3日20時18分発行